

令和4年度 第2回横浜市いじめ問題対策連絡協議会

(日 時)	令和4年10月26日(水) 9:15~11:00
(場 所)	横浜市庁舎 18階共用会議室 なみき18・19
(出席者)	後藤 賢一、鈴木 代光、志田 政明、松本 豊、岩間 文孝、竹原 浩太郎、大幸 麻理、栗田 智則、星野 浩、小林 淳一(代理出席:中村特別支援学校長 菊本 純)、川尻 基晴、飯田 晃、佐々井 正泰、遠藤 寛子(代理出席:こども青少年局青少年育成課担当係長 小松 ナツメ)、近藤 浩人 15名
(欠席者)	内田 沢子
(開催形態)	公開(傍聴者0名)
(議 題)	1 いじめ防止啓発月間(12月)における取組について 2 12月のいじめ防止市民フォーラムのテーマについて 3 その他
(議 事)	<p>1 教育委員会挨拶 近藤部長より挨拶</p> <p>2 会議録の確認 佐々井委員に決定</p> <p>3 協議 (1) いじめ防止啓発月間(12月)における取組について (栗田会長) (1)いじめ防止啓発月間(12月)における取組については、第1回協議会の協議内容に基づき、事務局が準備を進めていると聞いています。進捗状況を事務局から報告願います。 (事務局・藤田主任指導主事) 実施内容は、大きく分けて2つあります。1つが啓発月間を通した取組、2つ目が、いじめ防止市民フォーラムの実施になります。 まず初めに、啓発月間を通した取組として、3つ御説明します。1つ目が、いじめ防止に向けたポスター・のぼり旗です。いじめ防止啓発月間のシンボルとして、ポスターやのぼり旗を、全市立学校及び関係機関、区役所等に掲示し、啓発活動を推進していきます。今年度も啓発月間のポスターとともに、子どもたちだけではなく大人が、いじめ防止のために何ができるかを改めて考えて提言にまとめた「いじめ防止に向けた提言」のポスターも掲示する予定です。のぼり旗については、全市立学校に配られており、昨年度、令和2年度、令和元年度に毎年1種類ずつ、計3種類配付しました。今年度も、既に昨年までに配付済みののぼり旗を学校等で掲示する予定です。 2つ目が、市営地下鉄での広告掲出になります。市営地下鉄ブルーライン、それからグリーンラインの車内等にて広告を掲載します。啓発月間と併せて相談ダイヤルを11月30日(水)~12月20日(火)までの期間で周知する予定です。 3つ目は、いじめ解決一斉キャンペーンとして、各学校で子どもたちに無記名のアンケートを実施します。学校いじめ防止対策委員会で点検・確認することで、いじめのみならず、不安や悩みを抱え込んでいる児童生徒を適切に支援するためにアンケートを全校で実施します。この3つが啓発月間を通した取組です。 次に、いじめ防止市民フォーラムの開催について御説明します。今年は12月6日(火)に開催する予定です。詳細については後程御説明します。 (栗田会長)</p>

ただいま事務局から12月のいじめ防止啓発月間について、進捗状況の報告がありました。何か御意見がございますか。ないようでしたら、続きまして(2)のいじめ防止市民フォーラムのテーマについてです。各委員の皆様にはいじめ防止市民フォーラム全体テーマに関する回答票の作成・送付に御協力をいただき、ありがとうございました。最初にフォーラムの概要について、事務局が資料を用意しているとのことですので説明をお願いします。

(事務局・土井主任指導主事)

それでは、資料2-1を御覧ください。目的や開催日時・会場については資料のとおりです。「3開催内容<全体テーマ(案)>」ですが、今年度のテーマとして「オール横浜でつながり、広げる、いじめの未然防止」をメインテーマ、「いじめをなくすために、私ができること」をサブテーマとして提案させていただきました。

大まかな次第については、資料の記載のとおりです。今年度のメインは、4のポスターセッション、それから5の全体協議と考えています。また、今年度は子ども会議の取組の様子をスライドショーにして放映する予定です。

それでは裏面を御覧ください。まずはポスターセッションの内容について御説明します。区の代表として18の中学校ブロック(地域の中で中学校を中心にした小学校と中学校の小中一貫推進教育のグループ)に参加してもらうということになっています。表のところにA~Fまで打ってありますが、会場の中で、6ブロックずつ3交代で実践発表をしていただきます。アルファベットが各ブロックのブースです。参加の方々には会場を回遊するような形で各ブースの発表を御覧いただけます。おおよそ6、70分程度と考えています。

次のページを御覧ください。もう1つのメインとなる全体協議についてです。この全体協議は、前半をグループ協議30分、後半はグループ協議を踏まえてステージ上で代表の生徒が協議をしていく15分と予定しています。全体でおおよそ45分の予定です。本日、皆様に御検討いただくテーマが確定しましたら、学校に伝え、子どもたちに準備を進めてもらう予定です。後半の代表者は6名と考えていますが、ステージ上に生徒に出てもらい、各グループでの協議内容の発表の後、その場での意見交換をしていきたいと思っています。最終的にはテーマに沿って出た意見を整理し、各学校や中学校ブロックでの取組に活かしてもらえるようにアピールしてまとめていく予定です。今回の参加校はこの3ページの下に記載の表のとおりです。

各学校での年間を通した、いじめの未然防止の取組が横浜子ども会議ですので、このフォーラムのために用意をいただくというよりも、年間を通じた活動の中で、市民フォーラムを1つの区切りにして、発表をするようなイメージで今準備を進めてもらっています。市民フォーラムの説明は以上です。

(飯田委員)

フォーラムに参加する代表の学校はどのように選ばれたのでしょうか。

(事務局・土井主任指導主事)

8月の末、区の交流会として、区ごとに各学校が集まり、取組について実践発表や、話し合いをする場がございました。そこには、指導主事も参加していますので、教育委員会事務局の方で、取組が根付いているところ、あるいは地域や保護者と一緒に進めているところ、子どもたち主体の取組になっているところといったところについて候補を挙げさせていただき、学校と御相談をしながら決めてきました。

(川尻委員)

横浜子ども会議について全体像が分かりづらいため、どのような活動をされているのか教えていただけますか。

(事務局・土井主任指導主事)

中学校ブロックを基盤とし、子ども達が主体となって、いじめの未然防止のためにどのようなことができるのか、または、どのような取組をしていく必要があるのかなどを横浜市立学校、全校で話し合い、行動していくという活動です。挨拶運動をやりながらコミュニケーションを深めていこうということも、かつては多かったように思いますが、近年さらに素敵な変化が見えている学校も多いです。

この子ども会議は、平成25年の「いじめ問題対策連絡協議会」で、「子どもたちが主体でいじめ防止の取組を進めていったらいいのではないか」ということになり、始まりました。現在は子どもたちだけではなく、「いじめは社会全体で真剣に取組んでいく必要がある」という法の趣旨に則って、地域や保護者、そういった方たちにも積極的に入っていただきながら一緒にいじめについて考えていただく、あるいは子どもたちの取組を支えていただくという視点でも活動を進めています。発表や、区の交流会のために行うという事ではなく、年間を通して切れ目なく未然防止の取組をしていくという事を全て含め横浜子ども会議という名称にしております。

(川尻委員)

全校での実施と、さらに、その地域の方も入ってという事になると、具体的にどのように実施されているのかというイメージが掴みづらいのですが、分かりやすい例があったら教えていただけますか。

(事務局・土井主任指導主事)

いじめ防止市民フォーラムなどの実践の発表などから挙げさせていただきますと、横浜吉田中学校は外国につながるお子さんが非常に多く、つながっている国も多様です。なかなかコミュニケーションが難しい中で、子どもたち同士のトラブルがやはり起きているというところから、子どもたちがまずは、その国の挨拶を通して人と関わる必要があるのではないかという話し合いをしました。そこで、挨拶運動を色々な国の言葉で、その国の言葉でやっていくということが生徒会を中心に始まりました。そこに賛同していただいた商店街の方たちが、一緒に朝出てくださったり、商店街の一角を挨拶ロードのような形で提供いただいたり、また、のぼりやプラカードなどを作ってください、一緒にその取組を進めていると伺っています。

(川尻委員)

学校でどのような時間を使って話し合いをされているのかも教えていただければと思います。

(事務局・土井主任指導主事)

中学校は生徒会が中心になることが多いようです。小学校も、児童会など、各クラスで話し合ったものを全校の中で代表がとりまとめるというところからスタートしていくというパターンが多いようです。また、地域の方々に関しては、学家地連（学校・家庭・地域連携事業実行委員会）と呼ばれる、地域や保護者の方、それから学校の先生方が集まるような場がありますが、そこに子どもたちも参加し、自分たちの取組について発表したり、大人と一緒にいじめについて話し合う機会を設けたりする中で具体的な活動に結び付けていく、そういった実践も多く報告されています。

(栗田会長)

大幸委員から、小学校での取組等の御説明もお願いします。

(大幸委員)

今お話があったように、私共の学校でも、出発は児童会です。年間で話し合うことはたくさんありますが、その中の1つに、この「居心地のよい学校づくり」というテーマがあり、子どもたち自身が話し合い、活動を決めていきます。

そして、次に、中学校のブロックの話し合いの場に代表者が行って、「うちの学校はこんなことがしたい」というそれぞれの学校の取組を出し合い、ブロックとして大切にし

たいことを共有し、8月の交流会に向けて準備します。

地域の方々に関しては、私どものブロックでは6月に地域懇談会というものが開かれます。地域の方々、学校の職員、保護者そして児童生徒が集まったところで、地域の中でみなが安心して、居心地よく暮らせる街づくりのために、何をしたいか、どんなことが大切かという話し合いがもたれました。そこで、実際に決めたことを実践につなげていかないと意味がありませんので、毎月毎月振り返りをしながら、児童会が進めている最中です。

(栗田会長)

学校の立場からお話しさせていただきますと、横浜市内で中学校は現在147校、小学校は350数校ございます。その小・中学校での連携を行うため、市教委から連携を行う学校の指定がありました。例えば戸塚中学校でしたら小学校3校と連携しています。1校1小でやっているところもあり、色々な連携のパターンがあります。

それぞれの学校での取組はそれぞれ独自の、また地域性も含めて温度差もあろうかとは考えています。いずれにしても、学校として教育課程があり、その様々な教育課程の中で子どもが、居心地がよい、安心できる学校環境を作るためにということで、委員会活動等、学級活動等も含めて様々な角度から子どもたちのいじめ防止の雰囲気づくりに取り組んでいるのが現状です。それを形として表せるように、横浜子ども会議を上手に各中学校ブロックで取組として入れながら、顕在化させていくような動きをしています。

今年度、本校の取組で注目したのが、居心地がよいというのは誰にとって居心地がよいのか、ということでした。その原点に注目して、中学校ブロックで話し合い、そういう学校を作るための取組が、今、現実に行っているのかということをお話ししました。

「顔が見えるように」や「声がかきあえるように」ということで挨拶運動を重点的にやっているような学校や、何かあった時に助けが求められるような関係性を作ることができるようにするため、掲示物を充実させている学校など、それぞれの取組を中学校ブロックで出し合います。その次に、各区でそれぞれ報告をし合い、1つの横浜子ども会議という形を作っています。そして、その中でまた1つが選ばれて今回、各区の代表にフォーラムで発表してもらおうことになっています。

このコロナ禍で、地域の皆様や保護者の皆様に学校に入っていく機会がこの2年間ほどありませんでした。やっと、今年度、地域によっては地域懇談会等を再開したところもあります。そうした中で、横浜子ども会議の取組を、保護者や地域の皆様に御理解いただくため、学校運営協議会を通じてお知らせしたり、学校だよりを通じてお知らせしたりもしています。そういう形で周知しながら、皆様に支えていただいたり、応援をしていただいたりしているのが現状です。今回のフォーラムを通じて、この取組をお知らせしたいという趣旨かと、私は事務局の説明を聞いております。

また、高校の子ども会議についても星野委員からよろしいですか。

(星野委員)

高校でも、各学校生徒会が中心になって行っています。特別支援学校も含めて、高校の場合は9校10課程ございます。この高校と特別支援学校が集まって、7月に高校・特別支援学校の横浜子ども会というものを開催しました。その場では、テーマに則って、そのテーマをどう捉えるのか、どういう活動をしているのか、どういう課題があるのかを発表し合いました。その後、どういったことが大切なのか議論し合いました。そして、それぞれ出たものを各学校に持ち帰るといった形で行っております。

以前でしたら、各区で行われている小・中学校の子ども会議に高校が、ファシリテーターのような形で、議論を進めるということをやっていました。小・中学校での取組に対し、高校ではこういうふうに行っている、高校生としてはこういうふうを考えているというようなことも伝え、同時に、小・中学校の議論の中で出ていることを高校に持ち

帰るというようなことも行ってきました。しかし、今は、残念ながらそういう形で行われていません。

(松本委員)

先ほど川尻委員が質問された趣旨としては、日々忙しい学校の中で、どのくらいの時間を使ってこの会議を進めているかということだったように思います。年に何回ぐらい中学校ブロック会議があるのか、区の会議が何回あるのかといったところにも触れていただけますか。

(栗田会長)

横浜子ども会議として区の発表会を行うのが、夏休み明けですので、本校では小・中学校合同で会議をやるのは夏休み中に1回、区で発表するのは1回という形です。そこに今回のフォーラムを加えると、横浜子ども会議としては年3回になっています。

後は、それぞれの学校が、先ほど事務局からもありましたように、年間を通して各々の学校で取組んでいきます。いじめ防止対策の会議が各学校では行われているので、そこで、いじめとして認知しているか、認知したものがその後どういう経過をたどっているかということ話し合う会議を最低でも月1回持っています。

それでは、引き続き全体のテーマに関しての協議を行います。皆様から事前にお送りいただいた回答票の内容を事務局がまとめているとのことですので、説明をお願いします。

(事務局・土井主任指導主事)

ありがとうございます。少し補足させていただきますと、会議回数については制限があるわけではありません。中学校ブロックによっては、年間を通して児童生徒が何度も話し合いを重ねたり、日常的に共同的な取組実践をしたりしているところもございます。

さて、全体テーマについてですが、事前に皆様からたくさんの御意見いただきましたものは、資料2-2にまとめてございます。テーマの案は、事務局が事前にお話ししたとおりですけれども、それに対して、賛成という御意見を8名の方からいただきました。順番に紹介をさせていただきます。<<資料2-2読み上げ(別添当日資料参照)>>これに加えて、子どもたちの協議の方向性についての御意見をいただいたものをまとめさせていただきます。5番以降です。<<資料2-2の項目5以降読み上げ(別添当日資料参照)>>皆様からいただいた意見は以上です。よろしく願いいたします。

(栗田会長)

ありがとうございました。今御意見を紹介しましたが、これを受けまして再度協議を行います。何か御意見がある方いらっしゃいましたらお願いします。

(松本委員)

全部の意見を拝見して、もっともだなと思うことが多くありました。いじめ防止市民フォーラムの各ブロックのテーマを拝見して、挨拶や、居心地のよい学校を目指すということでアンケートを行うといった記載がありますが、これらは、確かにいじめの未然防止だと思います。ただ、私分からないのが、未然防止を唱える子どもたちの立場と言いますか、いじめの経験がないとか、学習評価が高いとか、人物像が高いとか、そういう子どもたちが集まってこういうことを提言しているとするならば、我々大人の上からの「こうしたらじめはなくなるよ、だからみんなで頑張ろう」を受け止めて、そこで止まってしまうのではないかと思います。僕も原案に賛成で出しましたが、やはりそれぞれの皆さんの認識の中で、実はこの案の裏にこういうものがあるという意見をお伺いできたらと思います。

(鈴木委員)

出席する子どもたちは、どういう子どもたちが多いのでしょうか。例えば「過去にいじめられたことがあるから、私に発言させてください」という方もいるのか、大将みた

いな感じで「いじめているやつなんかやっつけてやる」という子もいるのか、ただ「やりましょうよ」と先生方が作って、「じゃあ、あなた参加して御覧」と言われて参加している子なのか。「未然防止」という言葉のとおり、本当にいじめはないに越したことはないのですが、実際にいじめられている子はいるので、会議を活性化させるには、そういう子どもたちもいっぱい出てくれればよいのかもしれませんが。しかし、一方で「俺はかまってもらっている、いじめじゃないよ」という子どももいるかもしれません。そういう子どもたちも一緒に参加できたらいいなと思います。

(竹原委員)

メインテーマに大賛成で、実際、その場のディスカッションで終わるわけではなく、子ども会議で継続してつながっている、取組んでいるという事は非常に素晴らしいと思います。ずっと続けていくことが広がっていくことにつながると 생각합니다。学校ごとに少し温度差があるという点も、活動を続けていくことによって色々な学校に広がっていくのではないかと思います。また、保護者への広報や取組も徐々に広がっていけばいいなと思っています。

(岩間委員)

テーマですが、オール横浜でつながって広がる未然防止の「わ」のような感じはいかがでしょうか。横浜子ども会議を中心に広がっていく中に、いじめは学校で起こるといった感覚があると思うのですが、多分、学校だけではなく、放課後の場というものもあるので、そういう形で地域に広げていけるようなテーマになるのは、とてもいいことだなと感じます。

(事務局・土井主任指導主事)

岩間委員からの御意見については、オール横浜でつながり広げるいじめの未然防止の「わ」と新たな言葉を入れるとよいのではないかと具体的な御提案と理解しました。ここまでの皆様からの御意見の中でも、「学校だけで留まらず、保護者にも広げていく」や「この取組自体継続していくことによって」といったキーワードになる言葉をたくさんいただいたと思います。それをまとめると、岩間会長の御提案のように「未然防止のわ」とするのがよいかと考えておりますがいかがでしょうか。

(栗田会長)

わの「わ」は、どの「わ」のイメージでしょうか。輪っかの「輪」なのか、平和の「和」なのか、どれをイメージされましたか。

(大幸委員)

輪っかの「輪」でいいと思います。

(松本委員)

いいと思います。小学生は「未然防止」の意味が分からないと思うので、そこはかみ砕いて説明する必要があると思います。テーマの下にサブテーマがありますが、どちらも重たいと思います。本当は逆でもいいかなと思うぐらい、どちらも重たいので、我々はその点を認識してそれぞれの立場で伝えていくほうがよいと感じていました。

最近では、子ども会も少し活動できるようになりまして、地域でイベントがあると、青少年指導員さんや、町内会のおじさん・おばさんなどつながって、町の輪ができてきていると思います。子ども会議もそうですし、色々な場面でいじめと向かい合っていると思うのですが、いじめをなくすための取組を進めていく中で、一番苦労しているのは、やはり現場の先生方だと思います。いじめ防止の研修があったり、出張で会議があったりしますので、そういうことを考えると本当に大変だと思います。私も学校での責任ある立場から離れて長く、今の状況分かりませんが、当時は大変でした。

現場の負担を増やしてはいけないのですが、先ほどありましたように、例えば「私はいじめられているよ」と手を挙げることに對して、ピアサポートとでもいうのでしょ

か、子どもたちだけの中でそういう問題解決を図るためのチームというのも考えていいのではないのでしょうか。教員のメンターチームのような、自分のことを語るというイメージです。中学校ぐらいだと取り入れることも可能だと思います。先生方が指導しながら、生の声を、手紙でも電話でもいいので匿名で聞いて、伝えていくというのもあるといいのかもしれない。

テーマにも、「みんなで聞こういじめられたお友達の声」などもいいかもしれません。そうしますと「あなたはいじめられていませんか」という具体的な問い合わせが出てきます。挨拶も大事ですが、そういうところに踏み込むような姿勢をもって、私たちそれぞれの立場でできることを考えることが必要だと思います。「この頃、顔色悪いけれど、なにかあったの」という声掛けをするといったことが、未然防止につながると思います。

(栗田会長)

先ほどありました、どのような児童生徒が参加するかということにお答えしますと、おそらく中学校は生徒会長、小学校は児童会長といった立場の児童生徒です。では、その子がいじめの経験があるか否かなどの、様々な立場に関しては、教育相談の中で対応している事案なので把握はしておりません。

一方で、彼ら・彼女たちが様々発表させていただくという経験値は、大切な経験だなというふうに思っておりますし、彼ら・彼女たちが発信することで、学校の雰囲気づくりにつながっていくということも認識しながら、学校側はアプローチを行っています。

また、このテーマで、言葉というのは本当に難しいと、皆様のお話を聞きながら感じているところです。いじめが実際にあり、深刻な事案も多々あるのも事実です。言葉の裏に、見えないですが「少しでもなくしていくために」や、「なくしていく学校を目指していきたい」、その「雰囲気づくりをまずはしていきたい」といった、皆様の思いが乗っていくというものがあることをここで確認できると嬉しく思います。また、そこで発表してくれる子どもたちを皆様が温かく見守っていただき、またお声がけいただくことが1つの雰囲気づくりにつながると思っておりますので、是非様々なお気持ちで温かく支援していただけると幸いです。

前回の会議で発言させていただきました通り、それぞれのお立場で「一人」を救うために色々な形で手当てやネットワークを作っていただいて、「こういう子がうちに来たらこうやって支えているよ」という取組を共有させていただきました。「この場面ではこの機関の方にお世話になっている」、「この場面では学校が頑張っている」とか、「ここはやはり保護者の力を借りている」という状態で、本当に横浜全体で子どもたちを支えていく形ができるといいなと思っております。ですので、それぞれのお立場での取組を、それぞれリスペクトし合いながら、本当に「一人」を救っていくというような形が取れるよう、是非御協力いただければと思います。

それでは最終的な修正案に関しましては、事務局で決定ですね。基本的な方向としては、「輪」を付ける方向になります。次に、御意見いただいた児童生徒に聞きたいことについてもまとめているという事ですので、事務局説明をお願いします。

(事務局・土井主任指導主事)

資料2-3を御覧ください。こちらはいじめ防止市民フォーラムの全体協議のところで、子どもたちが協議をしていくそのテーマについて、皆様からいただいた御意見を、視点の1、2、3という事で整理をさせていただきました。

まず、視点1『いじめ』の現場に出会ったら何ができるのか?』です。<<資料2-3の視点1読み上げ(別添当日資料参照)>>自分事としていじめの現場に出会った時どういうふうにしていくのかという視点がまずございました。次に、視点2「自分が『いじめ』に悩んだときどうすればいいのか?」です。<<資料2-3の視点2読み上げ(別添当日資料参照)>>子どもたちが困った状況に直面した時に、一体どう対処していくのかというところの具体

を明らかにしたいという御意見だと思います。最後、視点3「どうして『いじめ』は起きてしまうのか?」です。〈〈資料2—3の視点3読み上げ(別添当日資料参照)〉〉

視点3については、事務局としては、一つ懸念がございます。子どもたち自身が自分の内面を見つめ直し、人間誰でもこういうふうになる可能性を持ち合わせているのではないかということに気づく中で、考えてほしいというメッセージなのではないかと私共は読み解きました。しかし、一方で、「どうして『いじめ』は起きてしまうのか?」を児童生徒が話し合う際、場合によっては、「いじめられる側にも原因や問題がある」というような意見も出る可能性がございます。私共としましては、このフォーラムで誰も傷つかないでほしいと願っています。もしよろしければ、皆様の議論の中で、そういう話の展開にならないためのこちらからの投げかけの案などを伺えると幸いです。

(栗田会長)

ありがとうございます。協議に入る前に、この全体協議のイニシアチブをとるのは誰でしょうか。

(事務局・土井主任指導主事)

グループ協議は中学生と考えています。そして、そのグループ協議を最終的に整理してまとめていく代表者については、当日立候補を募ろうと考えています。何かしらの思いを持って子どもたちはこの会場に集まってきてくれるという期待感を、我々としても持っていますので、あらかじめ何々学校のあなたですということではなく、その場で代表者を募って、決めていきたいと思います。もちろん事前に何を決めるかなどはお伝えしますが、代表者を決めるのは当日のリハーサルや打ち合わせのところだと考えています。ですので、中学生もいると思いますし、場合によっては小学生もステージに上がってくる可能性がございます。また各グループの協議内容を取材し、ステージ上でその内容をまとめ発表してもらおう担当も考えていまして、ここは中学生がいいかなと思っています。そういった形で、運営や進行はすべて子どもたちに任せていきたいと考えています。

(栗田会長)

事前に伝えなくて、その場で募って決めるということですね。

(事務局・土井主任指導主事)

その通りです。本番前のリハーサルや打ち合わせをする時間に、子どもたちから募りたいと思っています。

(志田委員)

いじめは、ナーバスで、普段は感じたくないことでしょうから、本来であれば、子どもたちも本当は口にしたくないかもしれません。みなが求めているものは、いじめの反対側にある幸せ感だとかみんなが楽しむとか、そういうものだと思いますので、そちらへ向かうための話合いだという、持っていき方であればいいと思います。「なぜこうなるか」という話合いは、やはり子どもたちにとってはあまり楽しくないような気がします。「みんなが幸せになるため、みんなが学校やクラスをよくするためには、こういう解決しなくてはならない問題があるから、これをみんなで考えよう」という、持って行き方でしたら子どもたちも意見も出しやすいように思います。

私に関わっている都筑区で、夏休み期間中に、子どもたちが「社会を明るくする運動」というものの一環として標語を考えています。そこで、何千人もの子どもたちが挨拶の大切さなどを考えてくれます。文章だと、「挨拶すればなんか気持ちがいいよ」といったそういうものですね。色々なことを一人ひとりが考えてくれて、それを私たちが審査し、学校に戻しています。そういった経験から思うことは、いじめをあまり極端にするのではなくて、話合いの向かうところはこっちだっていうのを示してあげるというのは大事だと思います。

(栗田会長)

私も志田委員と同様に、このテーマは重く感じます。これを子どもだけで軌道修正できる

のだろうか、危惧しているような方向に陥っていかないかと心配しています。しかも、会場で進行役を決め、その場で作っていかななくてはならないという状況に、どきどきしながら参加している子どもたちの中で、「ねばならぬ」という方向が、違う「ねばならぬ」になってはしまわないかと思っています。子どもたちに全く事前指導できない状態でやっていくのが心配です。

(松本委員)

私も、具体的に友達がいじめられたらという意見を出したのですが、今御意見を聞いていて、確かにそう思いました。中学校ブロックの発表の内容が資料に記載されていますが挨拶運動が多いですね。例えば、「挨拶はなぜいじめのない学校につながるのだろうか」とか、そういう前半の部分を受けてのテーマを持ってくると色々発表取組が生きてくるかと思えます。そうしてステップアップの形で考えるとプラス思考で話し合いを進められるのかな、ということも考えました。

(志田委員)

私からも、この資料を見ますと、中学校とか小学校の子どもたちが言ってくれるのはやはり笑顔だとか、挨拶だとか、そういうのが一番多いですね。子どもたちの中には、人と人がつながっていくような良いイメージが先にあるように思います。やはり、そちらを目指すというのはあっていいと思います。そうした方向性で皆さんが話し合ってくれるのが私はいいと考えています。

(鈴木委員)

この会議が始まる前には、総合プロデューサーのような方から子どもたちへ説明はあるのでしょうか。入り口は、さっき御意見があったように、木を見て森を見ずというのでしょうか、木があって、そこで、夢とか希望とか安全安心などといった嬉しいことが、テーマとしてあって、その中の障害となるものが1つの枝で、それが「いじめ」だったという形がよいと思います。ですので、いきなり、「さあ、いじめがあったらあなたはどうしますか」となると、夢や希望、信頼、家族、安全安心といった大きな夢を描かないまま、障害だけを突然言われると、多分子どもたちも混乱すると思います。事前に「こういうことを聞かれるよ」という情報は流さないのですか。

(事務局)

事前にそういった情報は参加児童生徒にお伝えします。

(鈴木委員)

そうなる最初入り口は、もっと明るい夢などから入って、逆に「そうなるためにはでもこういうこと(いじめ)があったら大変だね」という入り方のほうが子どもたちは話しやすいのかなかと思っています。雰囲気づくりとして。

(飯田委員)

この全体協議を通じて話し合い、最終的に「今後いじめをなくすためにできることはこういうことです」と発表するという流れになると理解していますが、その場合、こちらがある程度方向性を決めていて「こういうものが出たらいいな」とイメージを持っているということでしょうか。

確かに、子どもたちだけでやると色々な意見が出てしまって、收拾がつかないというものもあるのですが、あまり誘導してしまうと、つまらないと言いますか、やる意味があるのだろうかという気もしています。結局「グループセッションで話した内容がよかったので、それをやりましょう」となってしまう気がします。そうすると、グループ協議と全体協議に分ける意味がなくなってしまうので、難しいとは思いますが、誘導しない形で何かうまくできればと思います。せっかくなので、色々な意見を出してもらってもいいのではないのでしょうか。どうしていじめが起きてしまうのかというのはナーバスなテーマだと思いますし、その場でいじめをしたことがある人が来るのかどうかも分かりませんが、本当は、なぜいじめ

をしてしまったのかというのを言っただけのととてもいいのかなとは思いますが、ただ、確かに、子どもたちだけでやっていくと、まとまらなかったり、とんでもない方向に行ってしまうかもしれないので、そこはもしかしたら大人が少しファシリテートで入り、サポートする必要はあるかもしれません。

(栗田会長)

ありがとうございます。いかがでしょうか。協議の最終イメージが委員の皆様の中でも漠然としているように思いますが、事務局はどのように考えていますか。

(事務局・土井主任指導主事)

はい、私共としては、「漠然」でいいのではないかと考えています。毎年、子どもたちの生の声のパワーは想像以上ですので、こちらが意図しない本音が出てくることを期待しています。予定調和な、大人が作るものではなく、本当に子どもたちがどう考えているのかが見えるライブ感のある話し合いを設定する、それを支えることが私たちの大事な役割なのではないかと考えています。ただ、今御意見いただいたように、子どもたちがそこで困らないように当然、大人がサポートする必要があると思います。事前の流れの打ち合わせや、リハーサルは子どもたちと一緒にきちんと行っていくつもりです。今日この場で協議のテーマが決まれば、それについても事前に子どもたちにも「こういった話し合いをしますので考えてきてくださいね」とお伝えします。

協議の最終の着地点は、正直どうなるか分かりませんが、今持っているイメージとしては、様々なグループから出た意見、それからステージに出た代表の子どもたちがそれを受けて感じたことを意見交流した後、やはり少し整理をする必要があるかなと思います。

「今日ここでこの場でみんなが話し合ったことはこういうことでしたよね」、「是非各学校あるいは中学校ブロックに持ち帰って、横浜としてみんなでこういうような方向の取組をしていきましょう」と言葉でのまとめは当然していただきたいと思います。皆様方とイメージ共有できましたでしょうか。是非また御意見いただければ改めて方法も再考したいと思いますので、よろしくをお願いします。

(大幸委員)

今、小学生が協議のところで何を話せるかなと、うちの子どもたちを思い浮かべながらお話伺っておりました。

うちの学校でも12月のいじめ防止啓発月間中に、各クラスでいじめについて話し合う計画があります。もちろん、低学年は低学年の中で分かる範囲で行いますし、学年ごとに内容を決めて行っていきます。そもそも、子どもたちがいじめをどう捉えているのか、どのようなものをいじめと思うのか、私も関心を持っているところです。

本当に、皆様が仰っているとおりで「いじめがない社会がいいよね、みんなが笑顔になる社会だった方がいいよね」というところにゴールを持っていく必要があると思います。「悲しい思いをしているお友達や、あるいは自分が傷つくということがなくなるようにしたいよね」というところを最終ゴールとする方向性です。

そもそも、いじめが起きてしまう理由や「いじめってこういうものだよね」という子どもたちの捉えを、子どもなりに議論する中で、『自分とは違う』、『〇〇ができないから』といった差別意識がいじめにつながっちゃうんじゃないか」といった気づきもあるかもしれません。そういった子どもたちなりのいじめの捉えを聞いて、「これって大人の社会にもあるよね」などと大人も気付かされるということもあるのではないのでしょうか。

もちろん、そこで子どもたちに傷ついてほしくないのですが、ゴールはゴールとして、「だからこそこんな社会をみんなで築いていこう」、「ここは駄目だよね」という方向性を持っていくために、子どもの生の思いは、聞きたいと思っています。

本当に重たいテーマですので、子どもたちがどれくらい話せるかはわかりません。ただ、例えば「挨拶がどうしていじめ防止につながるのだろうか」というところはもちろん、「人

と人がコミュニケーションを取ることで平和になる」ということは、多分子どもたちは言うのではないかと思います。いじめ防止フォーラムですから、「いじめ」に触れるということは、大事なんじゃないかなと思っています。

(星野委員)

今、大幸委員が言われたように、ここで我々が定義しているところの「いじめ」ってありますよね。「いじめ」がどうして起きるのかと考えた時、我々のイメージする「いじめ」と、子どもがイメージする「いじめ」の捉え方は違うのではないかと思います。改めて子どもに聞きたいなと思います。「あなたにとっての『いじめ』」、「あなたは学校で『いじめ』ってどのようなものが『いじめ』だと思いますか」というところです。

最後の視点3のところでは難しい問題であって、先ほどあったとおり、悪の平等意識と言いますか、「みんなが同じであるべきだ」というところから外れている人たちに対しての言葉ですとか、あるいは悪い正義感というのもあるかと思います。クラスで、色々なことが一緒にできないことや、ものを忘れてしまうということに対しての正義感から、その子を責めてしまうというようにいじめもあるかもしれないと思います。そのように考えていくと、子どもたちが良いと思っていること、正義と捉えていること、みんなと一緒にできなくちゃいけないと思っていることに対しても、「こう言われて悩んでいる子たちがいる」、「そういう子たちが自分たちの周りにはいる」というところでのいじめの捉え方といいますか、そういったものを悪意のないいじめって言いますかね、そういうものもあるように思います。何も理由がないのに殴ってしまうとか、何も理由がないのに足を引っかけてしまうとか、そういう行動で見えるところのいじめと、そうじゃないところのいじめっていうのがあるかなと思っています。そういうことが子どもたちの中から出てくるといいのではないのでしょうか。

(岩間委員)

昨年度、こちらのフォーラムに出席して、子どもたちと一緒に発表する機会をいただきましたが、子どもたちが、とても重いテーマだとは思いますが、真剣に悩んで考えて言葉を発している姿を見て、「将来の地域ってこんなに明るくなるのかな」と希望をもらった気がしました。ですので、参加する子どもたちが傷つかないというのは一番大事なことだとは思いますが、子どもたちの生の声を聞いて、我々大人も頑張ろうという気持ちになるフォーラムになるといいのではと感じます。

(後藤委員)

実は私は、3番のテーマを聞いてみたいなという思いがあったのですが、この場で重たいテーマだという御意見を聞いて、確かにそのとおりだと思いました。しかし、今回のテーマが「未然防止」であるのと、原因が分からないと解決につながらないということで、視点3「どうしていじめは起きてしまうのか」に加え、「どうしたらいじめをなくせるか」、という視点も加えて、児童生徒に「こういうことをすると問題を解決できるんじゃないか」というような意見を出してもらえると、各参加者の心に、こういうものの見方があるんだというのを伝えられる場になるのかなと思います。「どうしていじめが起きてしまうのか」というよりは、どちらかというところ「それはどうやったら解決できるのか」というのが主題となるテーマがよいかと思いました。

(松本委員)

両方の御意見聞いて、どちらももともとだなと思っておりました。先ほども触れましたが、各区の中学校ブロックの取組や推薦理由の中に、いじめという言葉が1か所しか出てこないんです。ですから、「いじめ」ではなく「僕たちは前向きなことをしている」という意識の子ども達が集まっている場で、皆様が仰っているような、「生の声を聞く」という、この間がうまくつながらないといけないと思います。どこかで、このイベントとして「いじめ」にこだわりたいところがあると思うのですが、そういう思いで来ていない子も多分いると思うので、そんな子どもたちも一緒に「いじめ」について話し合える流れをうまく作ってい

ただきたいという気がしました。

(近藤委員)

御意見を伺いまして、事務局は重い宿題をいただいたなと思っております。まず、基本的に、今回のフォーラムが子ども会議を扱うという事で、本日は子ども会議の話がメインになりました。子ども会議は18区、毎年行っていて、私も見させていただいていますが、まず、子どもたちは私たちが思っているよりもよっぽど考えていますし、話せます。また、先ほどもお話しありましたとおり、フォーラムに来る子は特にそういう子です。ですので、こちらであまり心配して予定調和をするのは、先ほどお話があったとおり、意味がないと思います。やはり本音を語ってほしい、そういう場を作りたいと思っています。ただ、こちらも先ほどお話が出たように、このことによって傷ついたり、その場で子どもが困ってしまったりということは避けなければなりません。そこは事務局が責任をもって大人としてサポートさせていただきたいと思います。そして、いじめ防止市民フォーラムですので、全体協議でいじめのことにはもちろん触れ、真剣に考えてもらうようなテーマになるよう工夫したいと思います。方向性としては、明るい未来が語られるような、しかも、協議の前のポスターセッションのところでは、その子ども会議のテーマ「誰にとっても居心地のいい学校」にて発表をしていますので、そういうセッションとつながるような明るい話がまとまるような方向で、子どもの本音が聞けるような進行やテーマ設定を事務局にこれから考えていただきたいと思います。

(栗田会長)

全体協議をやりながら、子どもたちが困ったときには上手に事務局の方でサポートに入ることができるよう、スタンバイするというところでよろしいですか。

(事務局・土井主任指導主事)

はい。また事務局だけでなく、委員の皆様に入っていただくのもよいのではないかと思います。いかがでしょうか。

(栗田会長)

それについても、今後相談ということをお願いします。あくまで、全体協議の場で、いじめられる側にも問題があるような方向が表に出て、それが当たり前とならないように、「どんな理由があってもいじめる側が駄目なんだ」というところは根底に持ちながら、子どもたちが上手に問題解決できるようなサポートを、協議会としてやっていきたいということ。共通理解していただく形でよろしいでしょうか。皆様、様々御意見いただきまして、ありがとうございます。協議のテーマに関しては事務局で最終調整いただくようお願いします。それでは最後の3「その他」の報告に移らせていただきたいと思います。

<<次第に沿って3「その他」について事務局より説明>>

(栗田会長)

本日本定をしていた協議内容に関しましては以上でございます。何か委員の皆様より情報共有等ございますか。

(飯田委員)

いじめもそうですが、セクハラにしてもパワハラにしても受ける側が判断する問題だということは、やはり共通認識としてほしいなと思います。いじめている子は分からないかもしれないけれど、受けている方が「いじめだ」と認識すれば、もういじめはあるんですね。セクハラ、パワハラと同じようなやはり根底にあるものだと思いますので、共通認識しておいたほうがいいのではないかと思います。以上です。

(代理菊本委員)

特別支援学校にも、色々な学校があって、横浜子ども会議などに参加できる学校もできな

	<p>い学校もあります。私が以前に参加した際、やはり生徒会を中心に子ども会議に参加したのですが、その中で、その生徒会の役員の子でしたが、自分の置かれている環境や自分を卑下するわけでもなく周りを責めるわけでもなく、非常に上手にお話できたということがありました。私は、とても感動しました。今回、狭い意味での「いじめ」という形かなというところも感じる場所がありますが、やはり障害のある子ども、その家族、そういう人たちが感じていること、是非そういう視点をもってこの協議会進めていただけると有難いと思っています。どうぞよろしくお願いします。</p> <p>(川尻委員)</p> <p>来年度も、このいじめ防止市民フォーラムは行われる予定ですね。今回のサブテーマの「いじめをなくすために私ができること」というのが、子どもに、やや自分たちでなんとかしなさいといったような、自己責任的なところも少し感じられる気がします。もし可能であればなんでも、フォーラムを通して、子どもたちが大人や社会に何をしてもらいたいのか、いじめをなくすために何をしてもらいたいかといった点を、そういう声も出してもらって私たちがそれを学んでいくっていうような、運営が少しあるといいかなというように思いました。</p> <p>(栗田会長)</p> <p>ありがとうございます。昨年度、フォーラムの場で横浜市PTA連絡協議会や横浜子ども支援協議会に御発表いただいたように、地域や社会や周りの大人はいつでもあなたたちを助けるよというメッセージをずっと、10年かけて発信してきたかと思うのですが、継続して伝えていくことは大事だと思います。そうした声も吸い上げながら、発信もできるフォーラムでありたいと思いますので、よろしく願いいたします。それでは以上を持ちまして閉会いたします。</p> <p>〈閉会〉</p>
<p>(資料)</p>	<p>令和4年度第2回 横浜市いじめ問題対策連絡協議会 次第</p> <p>(資料1) いじめ防止啓発月間(12月)における取組について</p> <p>(資料2-1・2・3) 12月のいじめ防止市民フォーラムのテーマについて</p> <p>(資料3) 令和4年度横浜市いじめ防止啓発月間における取組の記者発表資料確認について</p> <p>(依頼)</p> <p>(資料4) 【参考】ピンクシャツデー2023 in 神奈川について</p> <p>(資料5) 令和5年度 いじめ問題対策連絡協議会開催について</p>